



写真：森田直樹/アフロスポーツ



“夢”の先へ
歩みを止めない強さ

写真：森田直樹/アフロスポーツ



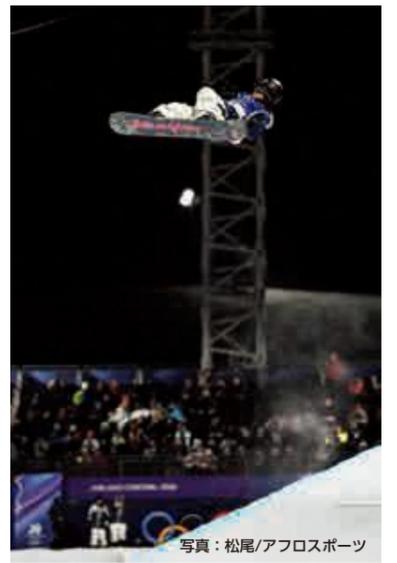
写真：森田直樹/アフロスポーツ



写真：森田直樹/アフロスポーツ



写真：森田直樹/アフロスポーツ



写真：松尾/アフロスポーツ

平野歩夢選手 たくさんの感動をありがとう。

てしまい、スコア更新は叶わず、ベストスコア86・50で3本のランは終了となりました。

早朝から開催となったパブリックビューイングの会場には200人を超える人が集まり、歩夢選手の滑りを見守りました。参加者たちは、「怪我が心配。無事に滑りきってほしい」と願っていました。1つ1つの技で着地が決まるたびに会場が沸き上がりました。歩夢選手の無事を祈りながら静かに画面を見つめる人、連覇に向けて期待の声を送る人、みなさんの想いはきっと歩夢選手の力になったことと思います。

連覇への期待、ライバルたちのレベルアップ、怪我への不安など、たくさんのプレッシャーの中で挑んだオリンピック。メダル獲得よりも、夢に向かってストイックに挑戦を続け、怪我にも負けず歩みを止めないその姿は、多くの人に夢と希望、勇気そして感動を与えてくれました。

決勝の後日、「また0から自分に勝ちたい」と思っています。SNSを更新。自分の限界への挑戦者として気持ちを新たに歩み続ける歩夢選手のさらなる活躍を期待しています。

歩夢選手、たくさんの感動を本当にありがとうございました。

2月14日（日本時間）にイタリアのリヴィーニョで行われたミラノ・コルティナ2026オリンピックのスノーボード男子ハーフパイプ決勝。1月の大会で骨盤の骨折など、負傷を負い、満身創痍の状態でオリンピックに挑んだ平野歩夢選手。予選ではベストスコア85・50をマークし、7位で決勝に進出しました。

決勝1本目
3ヒット目で過去最高難度の技「フロントサイドダブルコーク1620（前向き縦2回転、横4回転半）」に挑戦しましたが、惜しくも転倒。身体的にも厳しい状況で、過去最高難度の技に挑戦する姿は、観客を熱狂させました。

決勝2本目
フロントサイドダブルコーク1620に加え、前回金メダル獲得の要となったフロントサイドトリプルコーク1440（前向き縦3回転、横4回転）を繰り出し、スコア86・50の素晴らしいルーティンを見せました。情報センターで行われたパブリックビューイングの会場でも喜びの歓声が沸き上がりました。

決勝3本目
メダル獲得には少なくともスコア90以上が必要な状況。同じルーティンで完成度を上げ、スコア更新を狙いましたが、4ヒット目の着地の際に転倒し